

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 3 区分

【発行日】平成24年6月7日(2012.6.7)

【公開番号】特開2011-52947(P2011-52947A)

【公開日】平成23年3月17日(2011.3.17)

【年通号数】公開・登録公報2011-011

【出願番号】特願2009-205070(P2009-205070)

【国際特許分類】

F 2 3 D 14/06 (2006.01)

【F I】

F 2 3 D 14/06 H

【手続補正書】

【提出日】平成24年4月16日(2012.4.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

本発明によれば、スロート部の下端開口にノズルから燃料ガスを噴射すると、スロート部の上端開口から流出するガス流が板部に当たって径方向に拡げられると同時にスロート部の下端開口から一次空気が吸い込まれる効果、所謂ラジアルベンチュリー効果を生じる。そして、スロート部に燃焼ガスと一次空気とが混合され、この混合ガスがチャンバを介して炎孔に供給されて燃焼する。そして、お手入れ時にバーナボディからバーナキャップを取り外しても、板部がスロート部を通してノズルが露出することを防止するカバーとして機能し、水滴や異物がスロート部を通してノズル上に落下してノズル詰まりが生じることを防止できる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 5】

上記のようにコンロ用バーナ 3 をセットした後、ノズル 6 からスロート部 3 1 f に燃料ガスを噴射すると、スロート部 3 1 f の上端開口から流出するガス流が板部 3 1 h の下面に当たって径方向に拡げられると同時にスロート部 3 1 f の下端開口から一次空気が吸い込まれる効果、所謂ラジアルベンチュリー効果を生じる。なお、本実施形態では、スロート部 3 1 f をテーパ形状とすると共に所定の間隔を存して板部 3 1 h を設けたことで、スロート部 3 1 f がストレート形状であるものと比較してスロート部 3 1 f の長さを短くしても、確実にラジアルベンチュリー効果を生じさせることができ、コンロ用バーナ 3 の更なる小型化が図れる。そして、スロート部 3 1 f に燃焼ガスと一次空気とが混合され、この混合ガスがチャンバ 3 3 を介して炎孔に供給されて燃焼する。